



新規受託項目

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記項目につきまして、検査の受託を開始いたしますのでご案内申し上げます。

謹白



項目名

婦人科 LBC (婦人科液状化検体細胞診) (依頼コード No.2725)

受託開始日 2011年6月1日(水) 受付分より

弊社では、婦人科液状化検体細胞診 (LBC 法) の受託が可能となりましたのでご案内申し上げます。ご提出にあたりましては、専用依頼書および専用容器をご利用いただきますようお願い申し上げます。

現在、婦人科細胞診検査は主に塗抹標本で実施されていますが、近年、専用の細胞保存液入り容器を使用した LBC 法が普及してきました。LBC 法の特徴は、従来法に比べ、細胞の保存性に優れていること、採取された細胞から作製される標本の均一化が可能となるなどの点があります。

今回弊社では、標本作製方法といたしまして、シンプレップ方式 (ThinPrep®) を採用することとなりましたので、併せてご了承賜りますようお願い申し上げます。

受託要領

依頼コード No.	2725
対象材料	婦人科材料 (子宮腔部、子宮頸部、腔部・頸部、腔断端、腔壁)
使用依頼書	専用：婦人科液状細胞診検査依頼書
提出容器	シンプレップ バイアル (専用指定)
採取器具	サーベックスブラシ、エンドサーベックスブラシ 他
保存方法	室温
検査方法	LBC 法 (Liquid Based Cytology 法)
報告形式	従来通り (クラス分類とベセスダ分類併記)
報告日数	4 ~ 9 日
検査実施料	「N004」細胞診 (1) 婦人科材料等によるもの 150 点

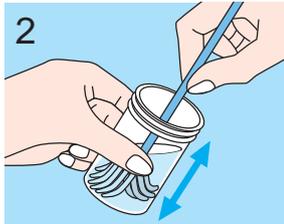
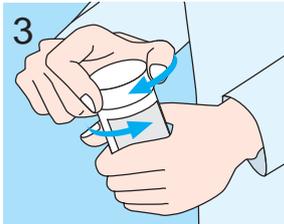
*裏面の提出時のご注意等をご参照ください。

裏面に続きます

提出時のご注意

1. 婦人科 LBC のご依頼には、**必ず専用依頼書をご利用**いただきますようお願いいたします。
従来法（塗抹法）の検体で使用する依頼書とは、依頼コード No. や材料コードなどが異なりますので
婦人科液状細胞診検査依頼書（LBC 用依頼書）をお申し付けください。
2. 専用容器にも、**患者様名を必ず正確**にご記入ください。
3. 子宮内膜検体は従来法（塗抹標本）でご提出いただき、依頼書も従来法用のものをご使用ください。
弊社では、子宮内膜検体について、この容器を使用することをお薦めしておりません。
4. LBC 法では、婦人科材料以外の材料（部位）での受託はいたしませんのでご了承願います。

採取容器・ブラシおよび使用方法

<p>専用容器</p>	<p>シンプレップバイアルをご使用ください。 (他の容器では受託いたしません)</p> 
<p>採取器具</p>	<p>LBC 法では、下記のブラシなどが一般的に使用されています。 使用されるブラシにつきましては、各施設様のご判断で選択をお願いいたします。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>サーベックスブラシ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>サーベックスブラシ (コンビタイプ)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>エンドサーベックスブラシ (標準タイプ)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>エンドサーベックスブラシ (Sタイプ)</p> </div> </div>
<p>採取後の手順</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>1</p>  <p>ブラシ等で検体を採取。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>2</p>  <p>ブラシ先端を保存液中で左右に数回回転させるなどして細胞を洗い落とす。 (洗い落とした後、ブラシの先端などの採取器具はバイアル内に入れないでご提出ください。)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>3</p>  <p>目印のラインまでしっかり蓋を閉めて、ご提出ください。</p> </div> </div>

【測定方法の参考文献】

1. 坂本穆彦「子宮頸部細胞診ベセスダシステム運用の実際」医学書院，2010.
2. 「子宮がん検診と HPV」に関する検討委員会編集「子宮頸がん検診とヒトパピローマウイルス Question & Answers 集」，2009.
3. 赤松節、他：日臨細胞誌 44；63-68，2005.
4. 赤松節、他：日臨細胞誌 47；420-424，2008.
5. 平井康夫、他：日臨細胞誌 49：237-241，2010.
6. Bigras G, et al. : J Low Genit Tract Dis. 7 (3): 168-174，2003.
7. Sweeney BJ, et al. : Cancer 108 (1): 27-31，2006.
8. Fremont-Smith M, et al. : Cancer 102 (5): 269-279，2004.
9. Nance KV : Diagn Cytopathol. 35 (3): 148-153，2007.